

## 23 血液透析患者の便秘実態調査からの考察

○北澤勉 中村哲朗 1) 松橋ひろ子・塩野入悦子・進藤良子・赤岩恵子・岩田正子 2)  
仲田里美・仲田美智子・村松栄登・早川聡子 3) 奥村初美 4) 今井恵美子 5)  
朝日えり子・坂西佐智世 6) 徳竹英子 7) 市川千代子 8) 佐治瑞恵 9)  
赤津サトミ・羽鳥照美 10) 原田美保子 11) 日本腎不全看護学会長野県連絡会

### 1. はじめに

透析患者にとって、日常生活の中で排便がすつきりあるということはQOL上からも大切なことと考える。しかし、稲岡が報告しているように、透析患者の半数は、便秘の問題を抱えている。我々も各施設において実感していたが、データに基づいてはいなかった。

便秘には様々な要因があり、これまでも多くの研究がなされてきている。

今回我々は、協力施設において、外来透析患者の便秘の実態を明らかにし、その対策について検討していくための調査を施行した。調査結果を基に分析し若干の考察を得たので報告する。

### 2. 対象及び方法

対象は、県内で研究に対し、同意を得られた施設の外来透析患者県内 11 施設の外来透析患者、男性 359 名 女性 210 名計 606 名とした。

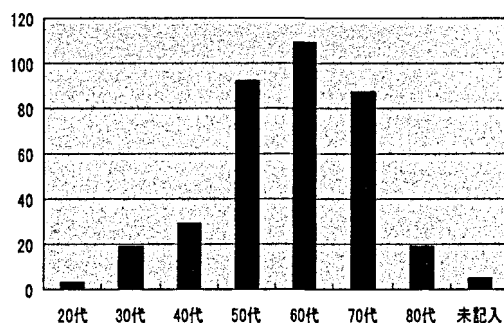
尚、今回の研究に際しては、患者及び各施設から同意書による同意を得、個人名、施設名が特定できることのないよう倫理的配慮を行っている。

### 3. 方法

便秘についてアンケート調査を実施し便秘について患者、家族と一緒に学ぶ機会とするため「透析者便秘対策フォーラム」を開催

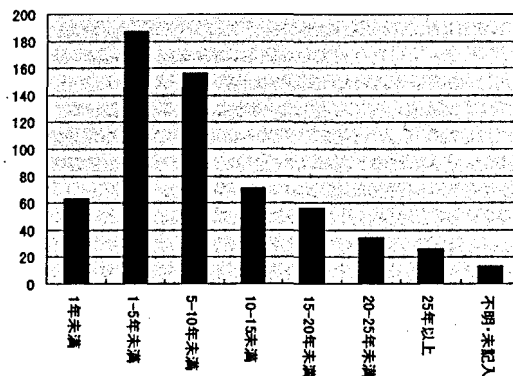
### 4. 結果

今回の対象となった患者の年齢別分布を示す。50代、60代、70代の患者が多くを占めていた。



透析歴別の分布図を示す。

透析歴 1 年から 5 年未満の対象者が多く、その次に 5 年から 10 年未満の患者となった。



対象の性別は女性 210 人、男性 359 人、未記入者 37 名であった。

糖尿病合併者は151名(25%)であった。

排便状況は、毎日あると答えた患者は392人であった。一日おきに有ると答えた患者は132人で、全体の86%を占めていた。

しかし、下剤の服用状況を見ると下剤服用者233人、時々服用者を含めると52%の患者は下剤を服用していた

下剤は毎日服用者が123人、透析前日に服用するものは39人、透析後に服用する患者は91人であった

便秘に対して47%の患者が様々な工夫をしていた

排便状況は、毎日あると答えた患者は392人であった。一日おきに有ると答えた患者は132人で、全体の86%を占めていた。

しかし、下剤の服用状況を見ると下剤服用者233人、時々服用者を含めると52%の患者は下剤を服用していた

下剤は毎日服用者が123人、透析前日に服用するものは39人、透析後に服用する患者は91人であった

便秘に対して47%の患者が様々な工夫をしていた

透析者便秘対策フォーラムは、7月9日(日)に松本文化会館において開催した。

患者・家族・透析関係スタッフらを対象に、慈恵医科大学病院中央透析室の稲岡元先生を講師に「透析患者の便秘症とその対策」をテーマに講演会、便秘体操、便秘のつぼコーナー、県栄養士の協力による栄養相談コーナー、透析関連サンプル紹介コーナーなどの分科会を行った。

講演会、便秘体操、便秘のつぼコーナー、県栄養士の協力による栄養相談コーナー、透析関連サンプル紹介コーナーなどの分科会を行った。

フォーラム参加者は透析患者、家族、医療スタッフ、一般の人であった

## 5. 考察

透析患者の便秘に対しては、これまでも数多くの施設が研究を続けてきている。しかし、今回のように施設を越えて実態を調査した研究は見当たらなかった。透析患者の抱える問題の把握は、各施設にとどまることなく数多くのデータを収集し、施設格差を超えて考えていかねばならないと考える。

今回の研究において、毎日排便があると答えた患者は86%であったが、下剤の服用状況からその大半は下剤を服用してのことだと言ったことがわかった。患者にとって便通の有無は、体重増加の原因にもなり多くの患者が排便調節に様々な工夫をしていた。排便は快適な生活を送る上で透析患者ばかりでなく、全ての人にとって大切なものである。ただ、食事や睡眠と異なり、臭いや羞恥心の問題などから透析患者は、トイレを我慢したり、下剤のかけ方を透析日にあわないように工夫したりと無理を強いられる事が多い事がわかった。

下剤に依存していくのは不安であるという声も数多くあり、自然の排便を望む患者の実態を確認する事ができた。

便秘に対して、透析患者には仕方のない事と、その対応も安易に下剤に頼っていたのではないだろうか。

日常の業務の中で患者個々の便秘の問題を深く追求する事もできずにいたことを振り返る事ができた。便秘の原因の一つに上げられている食物繊維不足に焦点を絞り今後の研究につなげていきたいと考える。

県内の患者を対象にしたこのようなフォーラムは、初めての試みであり高齢者患者の増えている現状において参加者を募るのは心配されたが、参加した患者からは、次回を望む声が多く聞かれた。

参加協力施設

昭和伊南総合病院

長野赤十字病院

鈴木泌尿器科

飯山赤十字病院

佐久総合病院

篠ノ井総合病院

諏訪赤十字病院

飯田市立病院

飯田病院

健和会病院

国保依田窪病院